

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年10月27日(火)

### 《神様から愛されれば、神様を愛するようになります》

今日の福音(ルカ 13・18 21)の「神の国のたとえ話」は、このように考えたらどうかと思います。

私たちは子どもの頃から、親に「神様を愛さなければならない。」「イエス様を愛さなければならない。」「マリア様を愛さなければならない。」と言われて育ってきましたよね。そして皆様も、子どもや孫にそのような話をなさっていると思います。律法の一番大切な掟の一つも神様を愛することですよね。しかし、無条件に「神様、イエス様、マリア様を愛しなさい。」と言われても、その愛は本物の愛になるでしょうか。

さあ、カトリック的なことを全く知らない、イエス様の名前くらいしか知らない人に、「神様を、イエス様を、愛しなさい。信じなさい。」と言ったら、どのような反応が返ってくるでしょうか。愛するためには、順番があります。愛するために一番必要なことは、『自分が愛されている』と分かることです。

皆様は、神様・イエス様を信じて信仰の生活をしていると思います。しかし、神様・イエス様に対して具体的な愛を感じているでしょうか。『自分が本当に愛しているのか、ただ頭だけで愛していないか』疑うことはないでしょうか。皆様が、『本当に神様を愛している』と言えるためには、何よりもまず『神様に愛されている』体験をしなければなりません。『愛されている』ことが分かったら、誰でも『私も神様を愛さなければならない』と思うでしょう。そして、『具体的にどうすれば愛することができるのか』考えると思います。

無条件に『誰かを愛しなさい』と言われても実行するのは難しいです。神様を愛することでも同じだと思います。『愛さなければならない』と言われても、どうすれば愛せるのか、よく分からないと思います。唯一の方法は、『自分が神様に愛されている』と感ずることです。

逆に、神様の国を述べ伝える立場で考えたとき、どうすれば述べ伝えることができるのでしょうか。どうすれば宣教ができるのでしょうか。簡単なことです。『愛されている』体験があれば、私たちも『愛する』ようになります。同じように私たちが述べ伝える相手も、わずかなことでも、私たちがその人のために、心をこめて、何かしていることを感じられれば、必ず反応を見せてくれます。

「神は愛です。」「神を信じなさい。」と言っただけでは、人々が神様に会うことにはなりません。神様の国というのは、私たちが誰かに見せる小さな振る舞いや心の動きによって、その人が感じるものです。感じられれば、その人もイエス様について興味を持つでしょう。関心を持つでしょう。そして、自分がある程度関心を持てば、自分でも気づかないうちに、イエス様・神様について知らない人に、「あなたもイエス様に興味を持ったらどうか。」と言葉をかけることができるようになると思います。言葉だけで誰かが教会に興味を持つようになることは、ありえないことです。言葉で述べ伝えるのと、その人に対する心で見せるのとでは、全然違うと思います。

私たちが無意識に口にした言葉で、ある人が人生を変えることになるかもしれません。そしてその人が、本当に神様に会い、今までの人生と全く違う道を歩むことになるかもしれません。皆様、ふだんの生活で会う人々に、本当に心をこめて何かしようとする心が何よりも必要であることを意識しましょう。

一番危険なふるまいとして注意しなければならないのは、形式的なふるまいです。形式的な「おは

ようございます」「お世話になります」「素晴らしいです」というような言葉は、どうでもいいのです。礼儀正しい言葉でなくても、自分が本当に褒められていれば、誰でもすぐに分かります。

皆様がレストランに行ったとき、従業員が親切な言葉をかけると思います。しかし、「この人は本当にわたしを大事にしている」とは思わないでしょう。

心で伝えようとする姿によって、神の国は少しずつでも広がっていくのではないのでしょうか。とにかく私たちは、その義務を背負っています。神の国を述べ伝えること、宣教することは、神様から任された義務の一つです。それを意識しながら、私が述べ伝えることで、私たち自身も癒され、もっと信仰の深くなる体験ができるように神様に祈りましょう。

ありがとうございました。